

ひまわりからの メッセージ

89号

2018.11.12.

NPO ひまわりの花内
西濃園域
発達障がい支援センター

発行人: 中野たみ子

つわぶき 石落の花



街路樹の葉が色づき、庭先では石落が咲きはじめていて十一月半ばも迎えようとしています。日々の過ぎゆきの何と速いことでしょう。十一月は、私の好きな季節です。万葉集に春と秋とを比べて「少しだけ秋が好きという長歌があつて、小学生の頃に「冬も春より来れば……」と一心に讀じていたことがありましたが、私の秋好きもそんなところから来ているのかもしれない。道端に吹き寄せられた落葉が、カサコソと小さな音をたてて風に吹かれていたり、街路樹からひらりと音もなく落ちてくる落葉をいとおしく思ったりするのも、そこに樹々のいのちが感じられるからでしょう。次の年の春にそなえた樹々のいとなみは、「今だけ」しか見えていない自分への反省にもなっています。

秋を詠ったランボーやヴェルレーヌの詩を思い出しながら、ふと詩情に耽るのも悪くないなあと思います。時には田舎道に車を止めて

ほんのわずかな時間を自然に向かうように心がけています。心のゆとりが生まれたいなあと思いつつ……。

ところで、このところ同級生の記事が相次いで新聞に紹介されていきました。一人は私設のコンサートホールを持つ渡辺久恵さん。外国から音楽家を招いてコンサートを開いていたのですが、ご主人の死後しばらく休止していた活動を再会したのでした。私は、あいにく仕事が入っていてコンサートに行くことはできませんでしたが、嬉しいニュースでした。

もう一人は野部博子さん。旧徳山村の写真を撮りつづけた増山たづ子さんの遺志を継いで、写真展や講演会を続けています。

同級生には、その他にも岐阜県泉のジュニアオーケストラの指揮者として活躍している古宮山和夫さんもいて、遠い昔に机を並べて共に学んだ仲間達の活躍に励まされる思いでした。人生は様々です。定年退職後、悠悠自適の生活を送っている人も多く、どんな人生がいいのかはわかりませんが、私は私です。自分が選んだ道だけれども、自分に与えられた道かもしれないと思つて進んでいこうと思います。終活も断捨離も、私の辞書にはまだ登場していませんから……。

晩秋のわが家の庭の一隅に、石落の黄の色が華やかさをもたらし出してくれています。暦の上では、もう冬です。

「見る力」を育てるビジョンアセスメント

WAVES (ウェーブス) について

私たちは、今まで学習に困りをもつ子どもたちの「目の機能」について学んできました。目で見た情報を正しくとらえられなくて困っている子どもたちに気づくと、オプトメトリストの方の力をお借りしてきました。

今回ご紹介するのは、教員の方に実施していただくもので、心理士などの資格は不要です。困りのある子どもたちに早く気づいてトレーニングしていくことができるといいですね。

でも、まず「見る力」って何だろう？と考えるみまなう。私たちが必要な物を見るためには、①視線を見たい物に向ける眼球の運動、②ピント合わせをする機能(調節)③両方の目で物をとらえる両眼視などが必要になります。そして見た情報の大事な部分に注目して unnecessary 部分は無視する力(選択的注意)、位置や空間をとらえる力(空間認知)見た形を頭にイメージする力(形態認知)や、見た情報を記憶しておく力(視覚性記憶)も情報処理には必要です。

しかし、感覚には視覚以外にも様々な感覚があり、目と運動機能の連携も必要です。

ウェーブスでは、私たちが今まで視機能とか視覚認知とか言うて

きたものを「視覚関連基礎スキル」と呼んでいて、幼児期のつまずきを十七項目あげています。左の表のようなことが見られらう。少しずつ目標をたてて取り組んでいかれるといいでしょう。

[表1] 幼児期に見られる視覚関連の症状

1	動いているボールやおもちゃを目で追ったり、取ったりするのが苦手
2	指さしたり、提示したりした物をすばやく見つけられない
3	指先を使った細かい遊びや作業はあまり好きではない
4	つまずいたり、物や人にぶつかったりすることが多い
5	積木やパズルをしたがらない、または苦手
6	ぬり絵やなぞり書きが苦手
7	ひとつのおもちゃで遊ぶ時間が短く、すぐに飽きてしまう
8	絵カードの遊びや図形の課題で見比べるのが苦手
9	目に見える位置の衣服のボタンのとめはずしが苦手
10	手元をあまり見ずに遊んだり、作業したりする
11	絵本などを見ると細かい部分に気づかない
12	下り階段や平均台など段差のある場所を怖がる
13	先生の示す見本や、まわりの子どもの様子を見て行動することができない
14	園庭や公園などで、遊具やおもちゃをすばやく見つけることができない
15	ハサミを使った作業が苦手
16	物を見るとき、必要以上に顔を近づける
17	折り紙が苦手

学校に入ると「視覚関連基礎スキル」の弱い子は、読み書きに
関連する活動や、手や指を使う活動、動きや位置をとらえる活
動などに困りが出てきます。

読みとびしが多い、黒板を書き写すことが苦手、定規の目盛が
読めない、図形の問題が苦手、読むとき集中力が続かない、百ます
計算で縦横の列を見誤まるなど、日常的に子どもたちをしつかり
観ていて下されば、困りのある子どもたちはすぐ分かります。でも
気づいた時に「努力が足りない子、怠けている子」と捉えるか、「も
しかしたら見る力に課題がある子なのでは?」と捉えるかが、
その子の分かれ道になります。

ウェーグスは小学校一年生から六年生までを対象としていま
すから、困りに気づいたら、まずやってみることも必要でしょう。そ
して子どもたちの原因を早くつきとめ、支援を始めたいものです。
ウェーグスの検査は、補助検査を入れると10項目あります。

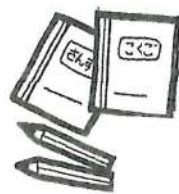
- ・線なぞり (一分) ・形みきわめ (二分プラス三分)
- ・形なぞり (一分) ・形おぼえ
- ・数字みくらべ (二分) (記憶 三十秒、回答九十秒)
- ・形あわせ (一分) ・形うつし (十分)
- ・形さがし (一分)
- ・形づくり (一分)

所要時間を見ると、短時間でできることがお分かりでしょう。

検査を終えたら、プロフィール表に記入し、分析を進めます。評価点
が4以上の場合は早急に支援が必要、「3」では弱さがある
可能性があるもので、そのねいに経過を見て、必要に応じて支援
を行う。「2」以下の場合には弱さを認めないということになります。
支援の方法としては、トレーニングドリルが市販されています。
検査用紙もドリルもコピー可ですから、安心して使用できま
すね。

いずれにしても、子どもたちの困りに気づいた時が支援のスタ
ートです。学習についていけない子には、それぞれ要因があります
から、是非、早くに気づいてあげたいものです!!

義務教育後を考える



「どうしても高校に行かせたいんです」という保護者の要望
に添えて、中学校の先生方は何とかなりたいと思って、定員に満
たない高校や、何とか入学できそうな高校を探して下さって、
生徒は合格しました。では、その先は……?

高校は、入学できても、単位がとれなければ進級できませ
ん。入学はしたけれど途中でやめていく生徒がたくさんいる
ことをご存知でしょうか? 又、勉強はできるけれど人関係
で困ってやめていく生徒もいます。保護者も本人も、特性を認め

たかないと思つてきたことにもよるでしょうが、「自己理解」「自己認知」ということは、本人が今後生きていく時にどうしても必要であるということを私たちは知っておく必要があると思います。

高校入試の折にも受験上の配慮申請をすることはできます。その生徒が通学している学校長や教育委員会が文書で申請します。誰でもそうしてもらえるかというと、決してそうではありません。大学入試センターでも「受験上の配慮案内」というものがあり、早目の相談を勧めています。大学によって支援の専門部署の呼称は色々ですが（岐阜大学・サポートルーム、中部学院・学生支援室など）事前相談にものってくれます。

対象となるのは自閉症、ADHD、学習障害などで、配慮事項として試験時間の延長（二・三倍）、拡大文字問題冊子（十四ポイントやニニポイント）別室の設定、試験室入口まで付添者の同伴など例が示されているようです。リスニングにおける配慮もあります。

その場合、一番役に立つのは、個別の支援計画等を含む支援内容の引き上げです。「特別支援教育は大変手がかかる」とか、「働き方改革の時代なのに……」などといった声がチラチラと聞こえてくるような昨今ですが、子どもたちの未来のことを考えていくことが何より大切なことでしょう。「個別の支援計画」がその児童・生徒の特性理解の上によりしっかりと立てられていれば

将来の本人の自己理解にもつながっていくはずなのであって、保護者支援として子育てを支えていくことにもつながっていくのだと思います。

大学から自立した社会生活への移行支援として、大学在学中にすべきことは①自己理解②セルフアドボカシー（自主的な自己の意思決定）③生活習慣の安定と言われています。しかし、年齢を重ねたからといって、そんなことが一朝一夕でできるはずはありません。幼児期から、わが子のことを理解し、育ててきてはじめて自立に向けて果立っていくのです。

私たちは、子どもを育てながら、実は子どもたちに育てられているのだと思うことがあります。幼児期には百パーセントの支援が必要だったのが、少しずつ自立に向けて手を離していきまふ。愛着行動（アタッチメント）を基盤として様々な人と出合い、社会性を身に付けていけるように、子どもたちを取り囲む大人自身が成長していかなければなりませんね！！



・次回親の会は12/10です。

・大垣市でスマイルブックをおもちのお子さんについて、小中へのひきつぎ会のための継続訪問を発達支援グループと協力して行っています。